

甌島におけるヒメアサリの袋網式天然採苗試験

北薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

甌島の外洋に面した砂礫底の海岸には、ヒメアサリが生息しており、地域住民の重要な資源となっている。

しかし、甌島の切り立った海岸の地形上、ヒメアサリが生息できる場所は限定的であると同時に、地域住民によるアサリの採捕も多いことから、近年アサリ資源が減少しているという声が上がっている。

そこで、水産研修・教育機構が開発したアサリの「網袋式天然採苗」の技術を用いて、甌島においてヒメアサリの増殖が可能かどうかその有効性を検証することとした。

【普及の内容・特徴】

袋網式天然採苗装置は、大きさ 60cm × 60cm、目合い 4.5mm の網袋に、粒径 10 ～ 20mm の小石を約 10kg 詰めて作成した。作成した網袋は、比較的波浪の影響を受けづらいと思われる甌島内の 3 カ所に設置した（表 1）。

網袋を設置する際には、先進地からアドバイスを受けた「淡水と海水が混ざる河口周辺やゴミが集積する場所」、「水深は小潮の干潮時に干上がるギリギリの場所」、「底質は砂の場所が良い。石である場合、石を除いて砂の上に接地させる」に留意して設置作業を行った。

設置した網袋は、その後モニタリング調査を実施した。

【成果・活用】

平成 29 年度末までに実施したモニタリング調査の結果を表 1 に示した。

モニタリング調査の結果から、これまで最大で 1 袋当たり 220 個のヒメアサリの着生が確認されている。特に青瀬地区では比較的高密度のヒメアサリの着生が確認されており、今回の調査した地区では、最も採苗に適していると考えられる。

このように甌島においても網袋式天然採苗装置によるヒメアサリの天然採苗が可能であることが確認された。しかし、採苗装置内に着生するヒメアサリの密度が全般的に低いことや、また、甌島の切り立った海岸の地形上、採苗装置をある程度の規模で安定して設置できる場所が少ないことなどから、養殖や放流用種苗の確保を目的とする大量採苗は困難が予想される。

しかし、モニタリング調査の際、採苗装置内に複数の世代のヒメアサリが比較的安定して住み続けている様子が確認された（図 2,4）。これは、外敵生物からの食害や人間からの採捕を回避した結果と考えられ、この採苗装置を将来産卵するヒメアサリを確保する保護礁として活用できる可能性はあると思われる。

表1 網袋設置箇所及びモニタリング調査結果

地区名	網袋設置年月日	網袋設置個数	モニタリング調査結果
里	H28.7.7	30	【調査日】H28.11.17 【結果】9袋の調査を行ったところ、川の両岸で多い傾向が見られ、1袋当たり0個から63個が確認された。長さは7-8 mmと22-23 mmのサイズが中心であった。
手打	H28.7.15	6	【調査日】H28.12.12 【結果】4袋測定し、1袋当たり3個から9個が確認され、長さは6~17 mmで8 mm程度のサイズが中心であった。
			【調査日】H29.7.6 【結果】当日発見できた3袋を測定し、1袋当たり7個から22個が確認され、20mm以上のサイズが中心であった。
青瀬	H27.7.29	6	【調査日】H28.6.22 【結果】H27年度設置分の調査を実施。1袋当たり15個から100個が確認され、長さは10~20 mmで同程度のサイズがそろっており、最大で25 mmが確認された。
	H28.7.15	4	【調査日】H28.12.12 【結果】H28年度設置分の2袋を測定したところ、1袋当たり2個から136個が確認され、長さは6~20 mmで15 mm程度のサイズが中心であった。H27年度設置分6袋の内の4袋を測定したところ、1袋当たり71個から212個が確認され、長さは8~26 mmの範囲で大サイズは20~26 mmだった。大サイズは昨年からの2年ものと推測された。
	計	10	【調査日】H29.7.6-7 【結果】設置した袋全ての測定を行ったところ、1袋当たり8個から220個が確認され、長さは20 mm以上と15mm程度のサイズが中心であった。また、10mm以下の小型のサイズも確認され、複数の世代が生息していることが推測された。



図1 網袋設置状況(里)



図2 採集されたアサリ(里)



図3 調査状況(青瀬)



図4 採集されたアサリ(青瀬)